

人間科学における関係弁証法の展開 (5)

小原伸子

The Development of Relationships-Trialectics in Human Science 5

Nobuko Obara

This is the fifth report about the theme of "The Development of Relationships-Trialectics in Human Science".

In this paper, I report the practice activity based on Relationships-Trialectics.

This practice activity was named "The Research on the Infant Education Group" in 1980 and it continued since then.

The main purposes of this report are as follows:

- I About the meaning and characteristic of "The Group".
- II About the movement of "The Group".
- III The report about the practice activity of "The Group".
- III The report about the study activity of "The Group".

はじめに

本研究は、「人間科学における関係弁証法の展開」と題する継続研究第5報である。本報告においては、1980年より佐藤啓子先生と筆者とが中心になり、関係学理論を基盤とする理論即実践、教育即研究の場として始めた幼児集団研究会活動の実践の報告である。すでにこの研究会に関しては、第2報において、「(2)家庭教育実践活動②家庭教育学級組織化の試み」の箇所で紹介し、第3報においても、「III 関係学的家庭教育の実践」と題して、活動内容と母親の感想より、原理との関連性を分析、考察している。

ここでは、主として

- I 幼児集団研究会の意義と特色
- II 幼児集団研究会の動向

- III 幼児集団研究会の実践活動報告
 - IV 幼児集団研究会の研究活動報告
- の視点から、さらに詳細に報告するものである。

I 幼児集団研究会の意義と特色

幼児集団研究会は、関係学理論を基盤とする理論即実践、教育即研究の場である。また、地域に開かれた活動でもあり、従来の家庭教育学級（母親中心の参加で、幼児は不参加の状況）には少ない母と子とリーダーの参加による合同活動、分化活動（子グループは、遊びを中心に、母グループは話しあいを中心に）を行っている「今、ここで、新しく」共に創り上げていく関係学的家庭教育学級をめざすものである。また、活動の中で関係的

存在としての自己一人一物のどこもが活かされる接在共存状況の体験、また、三者関係のかかわり方の学習によって、その体験が、家庭や社会における実践活動へと広がり、母と子とリーダーが、自発的・創造的に、接在共存状況を志向し、具現し得る担い手となることをめざすものである。以上が本研究会の意義である。

本研究会は、すでに1964年から、お茶の水女子大学児童臨床研究室において松村康平先生を中心に始められている児童集団研究会活動の特色に学びながら進めている。(後述詳細)その研究即実践活動は、『児童臨床学』「集団指導の理論・技法・実践」(発行1968年)⁽¹⁾において示されているので、それらを紹介しながら、本研究会独自のも補足しながら研究会の特色について以下に述べる。

- (1) 集団関係を基盤として、3者関係が発展するように行なわれている。
- (2) 集団活動の担い手としての成員の自発活動が促進され、他の成員の自発活動も尊重されるような集団経験が深まるようにする。
- (3) 各個人が集団活動を通して人間関係を、関係的に把握できるようにする。
- (4) 関係発展の方向を洞察し、発展・変革を促進する認識が育ち、その認識に立って、ふるまえるようにし、それらの認識および行為が日常生活の創造的活動に役立つようにする。
- (5) 集団は、子ども集団(以下子Gとする) 母親集団(以下母Gとする) リーダー集団(以下LGとする)の3層から構成される。3者は、相互に関係をもちながら、独自の活動を展開する。
- (6) 子G
 - ① 年令は、3才を中心に、相談⁽⁵⁾参照) によっては兄弟参加もある。10~12人程度である。

- ② これまでの家族集団の一員である家庭中心の生活から、友だち集団(幼稚園・保育所など)の一員として行為するようになる時期への移行の時期である。

- ③ これからは、関係の複雑化、役割の分化・多様化などのすすむ状況で、自発的に創造的にふるまい、関係を発展させていくことが要求されるようになる。

- ④ 家庭においては一般的に、母と子または父と子、あるいは父・母・子の関係で、子どもの自己が充実し、子どもらしさが発揮される。その子においては、父と母との関係が1者関係的に体験される場合が多い。その1者的2者関係、または、1者的3者関係では展開できない問題が生じはじめ、子どもとして独立した1者としての役割をとることが要求されるようになる。このような発達課題が解明され、子どもの生活体験がよりひろがり発展することを意図し、子Gの活動がすすめられる。

- ⑤ 3才児を中心とする集団活動であるが、相談によって兄弟の参加や要助児^(注)の参加もあり、子Gを層でとらえる統合活動がすすめられる。

(7) 母G

- ① 構成員は、子Gを構成している子どもの父母である。(活動時間の関係から集まるのは母親が多い。)

- ② 子どもの役割体験・関係体験・生活体験の発展は、その子どもと関係を結ぶすべての人の変化・発展と関連があり、どちらも影響しあう。このことは、その子どもと強い関係を結ぶ母親について、特にいえることである。

- ③ 子どもの変化・発展は、関係の他の担い手である母親の関係責任の遂行にかかっている。母親は、活動に参加し、子

※要助児とは、一般に障害児と呼ばれている子どものことである。本研究会では、人間を障害をもつ、もたないという区別からはじめるのではなく、すべての人間が助けを必要としている存在であり、その度合が障害児の場合は多く必要としているとの見方から呼んでいる。⁽²⁾

もとの合同活動を行ない、子どもと共に自発的に、創造的にふるまう体験を通して、家庭にもどっても、そこでの家族関係を変革できるように集団指導がすすめられる。

(8) LG

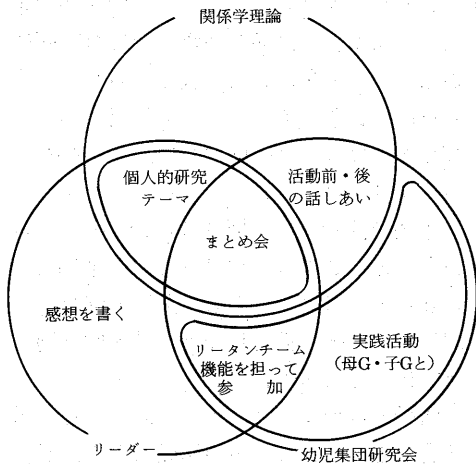
① 実践的役割：

子G活動・母G活動に参加し、その活動の発展する方向に関して主導的な役割を果たす。

② 研究的役割：

子G活動・母G活動に参加すると同時に、毎回活動前に話しあいを持ち、そこで、リーダー個人のねらいを今日の活動の大まかな方向性が検討され、活動後にも話しあいもたれる。そこでは、経過のおさえ、特色と問題点を話しあい、次回に向けての見通しをたてる。また、個人に毎回の感想が課せられる。さらに、Ⅰ期Ⅱ期Ⅲ期にまとめ会を行ない、活動の特色、集団の発展過程の類型化、リーダーチーム機能・活動に即して使用される技法の発見・個の変容などのテーマに即して研究がすすめられる。その他に、個人的テーマ（卒論との関係など）によ

図 - 1



る研究も並行してすすめられる。LGの機能を図式すれば図1の如くである。

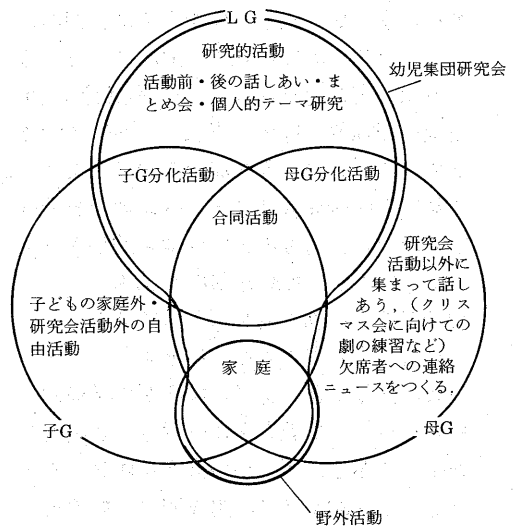
(9) 3集団の関係

① 各集団では、独自の行動が行なわれる。その行動は常に、他集団の活動と関連している。

② 遠足などの野外活動において、母子以外の家族の参加の機会が設定され、家庭と研究会活動との接点が用意され関係の拡大がはかられる。

3集団の関係を図式すると図2の如くである。

図 - 2



(10) 複数の指導者によるチームでの指導がなされる。

① 3者関係を成立させて指導をすすめるのが、チームによる指導である。

L₁：方向性機能

L₂：内容性機能

L₃：関係性機能

参加観察者

② チームによる集団指導では、複数のリーダーが役割を分化していることにより、状況を3者関係的に発展できる状況の中にリーダーは、状況を3者関係的に発展できる。状況の中において、関係の動きを

とらえ、関係を操作できる。

- ③ リーダーは、関係体験・関係認識・関係洞察・関係操作ができるように、体験を通して学んでいく。

Ⅱ 幼児集団研究会の動向

- (1) 関係学理論を基盤とする集団指導は、関係学理論の創始者である松村康平先生が、「関係療法における小集団活動」と称して、お茶の水女子大学児童臨床研究室ではじめられた1960年にその端を発する。この活動が発展して、1964年には、児童集団研究会として発足、以来松村康平先生が退官されてからも、黒田淑子先生を中心に、同所において、発展的に継続され続けている。その理論と実践の記録は、『児童臨床学』『集団指導の理論・技法・実践』において示されている。このような流れの中で、文教大学幼児集団研究会は、その基本理念を受け継ぎながら、越谷市という地域的特性をも活かしながら、独自の展開を試みようとし、1980年3月行動を開始したのである。
- (2) 当時、文教大学には、母と子とリーダーが共に活動できる適当な場所が大学構内に見当たらず、文教大学に一番近い北越谷公民館に交渉し、何回かの会合を館長さんらともち、1980年10月に第1回の開始の運びとなった。第1回の活動が開始するまでの4月から9月の間、研究会の主旨・活動内容・カリキュラムなどを検討し、関係学理論を深めた（小原，大谷典子一卒業生ボランティア，文教大生一予定されるリーダー⁽⁴⁾の参加による）。
- (3) 1980年第1回の公募は、北越谷公民館だよりと市の公報で行ない、先着順の申し込みとした。1日目で定員の10組となった。3才児をもつ母親たちが、機会があればこのような活動に参加したい意識をもっていることが、有々と伺えた。
- 半年間の活動は、Ⅰ期（10月7日～11月18日）Ⅱ期（11月25日～1月27日）Ⅲ期（2

月3日～3月17日）とし、毎週火曜日、21回行なった。活動時間は、①1時から1時30分：リーダーだけの活動前の話しあい（於北越谷公民館）②1時30分から3時：母と子とリーダーの参加による活動③3時から4時30分：経過のおさえや特色と問題点の話しあい（於文教大学）で行なった。

活動内容の特色は、子Gに関しては、兄弟の参加（2組）と要助児の参加があり、層的に活動をとらえてかかわる試みがなされた。また、1時間半という幼児にとっては少し長い活動時間（普通は1時間の活動とする）なので、分化活動の中に、牛乳飲みと本読み活動を導入、静かな活動として位置づけると同時に、1つのことをみんなで共有する体験が育つ試みをした。母Gに関しては、代々住んでいる家族と新興住宅地に住む核家族の構成の特色がでたり、在日台湾国籍の方の参加により、地域から外国へと意識が広がる体験をした。また、全体的には、元荒川の土手での遠足や、外活動、隣接する神社への散歩や梅見など、公民館を使用したことにより、広範囲に行動が展開した。リーダーチームに関しては、男性の参加により、ダイナミックな動きやスピード感⁽⁵⁾が加わり、遊びの種類が豊富となった。

- (4) 1981年第2回の活動は、4月からの開始となったが、公民館の運営上の都合で隔週となった。公募は、市の公報で行ない、申し込みは、先着順とした。応募者が多く、15組まで受け入れ、内1組は、去年の継続者の参加となった。

年間の活動は、Ⅰ期（5月19日～7月21日）Ⅱ期（10月6日～12月5日）Ⅲ期（1月19日～3月9日）とし、隔週火曜日、17回行なわれる。活動時間は、第1回と同じ時間帯で行なった。

活動内容の特色は、子Gに関しては、季節感を取り入れながらの活動（七夕活動、落葉拾い、梅見散歩など）が展開、また、ダンボールを使っでの遊びも特色のある活

動であった。母Gに関しては、隔週なので連絡を密にする意味もあり「かわら版」ができ、会の休みの週は、それを自宅で子どもと一緒に見る活動が創られた。また、後半には、レポーターを母Gの中で決め、テーマを通して、みんなでふるまい考える活動が展開した。⁽⁷⁾リーダーチームに関しては、2年目の参加者と初めての参加者と経験に幅ができ、第1回と内容が同じにならないように工夫が行なわれた。

- (5) 1982年第3回の活動は、文教大学附属図書館が新築され、その中に児童室が設置され、その児童室における本研究会活動の開始を申し入れ、図書館側との交渉（佐藤啓子先生、筆者、青木玲子—研究生、図書館側からは、松田氏参加による）が数回行なわれた。その結果、活動が展開できる見通しがたち、児童室の開放を待って、9月から活動が開始された。

公募は、市の公報で行ない、電話の申し込み順とした。ほとんど1日で定員の12組となった。応募者が多く、直に母親たちの声を聞き、研究会の重要性が改めて、LGに認識された。

半年間の活動は、Ⅰ期（9月22日～10月31日）Ⅱ期（11月10日～12月5日）Ⅲ期（1月12日～2月23日）とし、毎週水曜日、19回行なった。活動時間は、①9時30分から10時30分：リーダーだけの活動前の話しあい（於児童室の隣の会議室）②10時30分から11時30分：母と子とリーダー共の活動（於児童室・会議室）③11時30分から昼休みを入れて4時：リーダーだけの活動後の話しあい（於グループ研修室）で行なった。

活動内容の特色は、子Gに関しては、静かな活動を毎回入れることはなくなったが、限られた遊具を使い、ままごとコーナー、怪獣の家、お人形の家、なんでも屋さん、本屋さん、サンドイッチ屋さん、やきそば屋さんという工夫した遊びが展開した。また、後半には、「おおかみさん今何時」「かけた競争」などルール性のあ

る集団遊びも展開した。外活動では神社への散歩を行なった。姉妹の参加が2組あり、第1回に姉弟で参加し、今回下の子の参加という特色もあった。母Gに関しては、絵本についての話しあい活動から、絵本の読み方の工夫、実際にこどもに読み聞かせをする。その時の子の様子の記録、記録の整理と次々に展開し、クリスマス会には、「手ぶくろ」の劇を、おわかれ会には、「青ちゃんと黄色ちゃん」のペープサートを演じた。さらに、1983年4月から月1回母親たちの研究会がもたれ、活動が継続している。全体としては、子Gと母GとLGの話しあいの中から「どんぐり会」が「どんぐり貝」と変化し、この会の名称となった。リーダーチームに関しては、3年目、2年目、初めての経験者と層が増え、活動内容も前回にないものが、新しく増え続けている。また、話しあい活動でも、経過のおさえのみならず、理論との関係や原理との関係で思考し、質も変化してきている。

- (6) 1983年第4回の活動は、4月から開始され、文教大学附属図書館の児童室と会議室を使用して現在活動中である。

公募は、市の公報で行ない、往復ハガキの申し込みとし、厳正なる抽選で40組の中から12組決定した。

年間の活動は、Ⅰ期（4月20日～7月10日）Ⅱ期（9月14日～11月9日）Ⅲ期（11月16日～2月8日）とし、毎週水曜日、28回の予定である。活動時間は、第3回と同じ時間帯で行なわれている。現在Ⅱ期の活動に入り、子Gと母GとLGの相談活動から「バンビ」という名称で会が呼ばれ、活動を展開している途上にある。

Ⅲ 幼児集団研究会の実践活動報告

- (1) 第1回（1980年度）

① 活動経過

9月16日・30日：インテイク

10月7日～11月8日：Ⅰ期活動（7回）

11月25日～1月27日：Ⅱ期活動（7回）
2月3日～3月17日：Ⅲ期活動（7回）

② 活動時間

1時～1時30分：活動前の話しあい(LG)
1時30分～3時：活動(子G・母G・LG)
3時～4時30分：活動後の話しあい(LG)

③ 活動場所

北越谷公民館

④ 活動内容

「人間科学における関係弁証法の展開
(3)」に記載。⁽⁵⁾

⑤ リーダーチーム

顧問(研究指導)：佐藤啓子
全体・子G責任者：小原伸子
母G責任者：大谷典子
須田宏明・松井康博・小野由美子
矢口聡子・小沢一寿・沢田美代子
大河原千代子・青木俊夫・秋政保伸

(2) 第2回(1981年度)

① 活動経過

5月12日：インテイク
5月19日～7月21日：Ⅰ期活動(6回)
10月6日～12月15日：Ⅱ期活動(6回)
1月19日～3月9日：Ⅲ期活動(5回)

② 活動時間

1時～1時30分：活動前の話しあい(LG)
1時30分～3時：活動(子G・母G・LG)
3時～4時30分：活動後の話しあい(LG)

③ 活動場所

北越谷公民館

④ 活動内容

表1参照

⑤ リーダーチーム

顧問(研究指導)：佐藤啓子
全体・子G責任者：小原伸子
母G責任者：大谷典子
青木玲子・石井由美・安江甲子
青木俊夫・石塚隆裕・池原勝人
島崎みどり・橋本美恵子・秋政保伸
山中敏代

(3) 第3回(1982年度)

① 活動経過

9月15日：インテイク

9月22日～10月31日：Ⅰ期活動(7回)

11月10日～12月15日：Ⅱ期活動(5回)

1月12日～2月23日：Ⅲ期活動(7回)

② 活動時間

9時30分～10時30分：活動前の話しあい
10時30分～11時30分：活動(子G・母G・LG)
11時30分～3時30分：活動後の話しあい

③ 活動場所

文教大学附属図書館児童室・会議室

④ 活動内容

表2参照

⑤ リーダーチーム

顧問(研究指導)：佐藤啓子
全体・子G責任者：小原伸子
母G責任者：青木玲子
木賀由恵・高橋正昭・玉井昭仁
山上昭司・大丸美佐・福島佳代
西川由香理

(4) 第4回(1983年度)

① 活動経過

4月13日：インテイク
4月20日～7月10日：Ⅰ期活動(10回)
9月14日～11月9日：Ⅱ期活動(9回)
11月16日～2月8日：Ⅲ期活動(9回)

② 活動時間

9時30分～10時30分：活動前の話しあい
10時30分～11時30分：活動(子G・母G・LG)
11時30分～3時30分：活動後の話しあい

③ 活動場所

文教大学附属図書館児童室・会議室

④ 活動内容

現在活動中

⑤ リーダーチーム

顧問(研究指導)：佐藤啓子
全体・子G責任者：小原伸子
母G責任者：青木玲子
高橋正昭・福島佳代・大丸美佐
清水英美・高橋妙美・山中加代子
田島恵美子・萩原敦子・中村梨枝
佐藤則子・石川久美子・富山泰夫
高橋 誠・高木 宏・丸田隆喜

表-1 1981年度第2回各活動内容

	前半合同活動	子G分化活動	母G分化活動	後半合同活動
I 期	<ul style="list-style-type: none"> ○輪になる。こんにもはのうた。あいさつ……(毎回) ○館長さん、佐藤先生のあいさつ……(5/19) ○名前呼び活動……(毎回) ○名札を渡す……(5/19) ①ボールを投げる……(6/2) ②魚になって泳ぐ……(7/21) ○汽車で新しい場所を見て回る……(5/19) ○なべなべ底ぬけ……(6/2) ○高い高い……(6/16)(7/7) ○七夕の準備の説明……(7/7) ○水に入り魚。カニ、いるか、貝になって泳ぐ……(7/21) ○遠足(元荒川の土手)……(6/30) 	<ul style="list-style-type: none"> <いろいろな遊具で遊ぶ> ○毎回牛乳をのむ……(毎回) ○お話をきく……(毎回) ○ボール遊びコーナー 2ヶ所、ままごとコーナー……(6/2) ○ぞうさんのうた……(6/2) ○戸外活動(プランコやジャングルジム)……(7/21)(6/16) ○遠足……(6/30) ○折り紙・クレヨンでかざりつけ……(7/7) ○なんでも焼コーナー、ボールのなげっこ……(7/21) 	<ul style="list-style-type: none"> ○はじめての出会い、偉研のことを伝えあう。質問する……(5/19) ○自己紹介……(6/2) ○遠足にむけて(おやつのことについて)……(6/16) ○遠足(元荒川の土手で)……(6/30) ○私の子育てについて、七夕……(7/7) ○I期の反省、II期にむけて……(7/21) 	<ul style="list-style-type: none"> ○今日やったことを報告しあう……(5/19) ○高い高いをする……(5/19) ○輪になってさようならのうた。あいさつ……(毎回) ○出会い、子Gトンネル、母G汽車……(6/2) ○歌 <ul style="list-style-type: none"> ①ぞうさんのうた……(6/2) ②七夕のうた……(7/7) ○手あそび <ul style="list-style-type: none"> ①げんこつ山のたぬきさん……(6/16) ②坊主のうた……(6/16) ③ひげじいさん……(7/21) ○ささの葉をみて、たんざくをみんなて書……(7/7) ○魚になりねころぶ……(7/21) ○ボールをすいかにみたててすいかわりをする……(7/21) ○遠足……(6/30)
II 期	<ul style="list-style-type: none"> ○輪になる。こんにもはのうた。あいさつ……(毎回) ○名前呼び活動……(毎回) ○夏休みどこへ行ったか1人ずつきく……(10/6) ○なべなべ底ぬけ……(10/20)(11/3) ○でんでん虫のうた→でんでん虫になって……(10/20) ○遠足(大崎公園)……(11/3) ○しっぽとりゲーム……(11/17) ○リーダーが汽車になり入場、母・子をのせて、海→鉄橋→森→トンネル→雪の野原へ、おりて雪だるまをつくりポケットに入れる……(12/1) ○クリスマス会……(12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○牛乳を飲む……(毎回) ○お話を聞く……(毎回) ○ままごとコーナー、ボール投げコーナー ダンボールを使って(空飛ぶジェットン→おふろ→宇宙船→トンネル)……(10/6) ○ひらいたひらいた……(10/6) ○ままごとコーナー、ボール遊び、ぬいぐるみコーナー……(10/20) ○遠足……(11/3) ○落葉拾いに外へ散歩……(11/17) ○クリスマスに向けての製作活動……(12/1) ○クリスマス会……(12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○5つのかかり方と心理劇……(10/6) ○かわら版をII期から発行する ○かかり方の心理劇……(10/20) ○遠足(大崎公園)……(11/3) ○集団保育についての話しあい……(11/17) ○クリスマスに向けての話しあい……(12/1) ○クリスマス会 「大きなかぶ」を演じる……(12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○出会い <ul style="list-style-type: none"> ①子Gかくれていて、母Gがみつかる……(10/6)(11/17)(12/1) ○手あそび <ul style="list-style-type: none"> ①げんこつ山……(10/6) ②ひげじいさん……(10/6)(11/17) ③糸まき……(10/6)(10/20)(11/17) ④お弁当箱……(10/20) ⑤お寺のおしょうさん……(11/17) ⑥ちゃちゃつぼ……(12/1) ○遠足……(11/3) ○二重の輪になる……(12/1) ○ぶらさがりをする……(12/1) ○さようならのうた。あいさつ……(毎回) ○クリスマス会……(12/15)
III 期	<ul style="list-style-type: none"> ○心理劇を使って <ul style="list-style-type: none"> ①雪合戦……(1/19) ②スケートをする→魚つり→スケート→つり……(2/2) ③種まき→お花→ちょうちょ……(2/16) ④母Gうさぎ、子Gカエルで動く……(3/2) ⑤飛行機・汽車のうた→春の野原へお散歩へ行く→花いちもんめ……(3/2) ○輪になる。こんにもはのうた。あいさつ……(毎回) ○おわかれ会……(3/9) 	<ul style="list-style-type: none"> ○牛乳をのむ……(毎回) ○お話を聞く……(毎回) ○絵を書くコーナーとスーパーマーケットコーナーが できお山の上でパーティ……(1/19) ○集団遊び <ul style="list-style-type: none"> ①かごめかごめ……(1/19) ②あふべたった……(2/2) ○野外活動(プランコ・ジャングルジム)……(2/2) ○寺へ散歩に行く……(2/16) ○ロープが変化(池→へビーなわとび)……(2/16) ○ダンボールで家ができる。うたのきらいなおオオカミ出現、みんなでうたをうたう……(3/2) ○おわかれ会……(3/9) 	<ul style="list-style-type: none"> ○休みの間のこと、クリスマス会の感想、レポーターグループの発足……(1/19) ○体罰について、レポーターを通して……(2/2) ○文化財「絵本・テレビ」について、レポーター発表……(2/16) ○あそびについて、レポーター発表……(3/2) ○おわかれ会 「3匹のこぶた」を演じる……(3/9) 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団あそび <ul style="list-style-type: none"> ①あぶくたつた……(1/19)(2/16) ②かごめかごめ……(1/19)(2/2) ③かくれんぼ……(3/2) ○子がかくれている。母オオカミになって……(3/2) ○おわかれ会……(3/9)

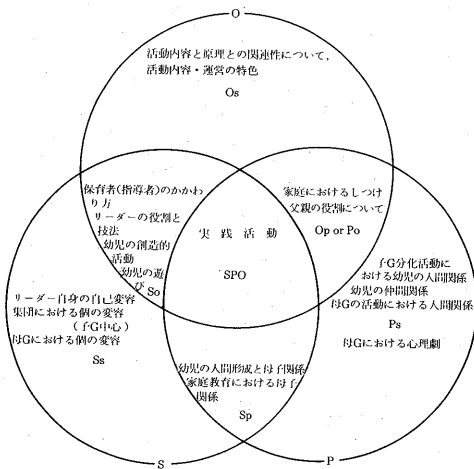
表-2 1982年度第3回各活動内容

	前半合同活動	子G分化活動	母G分化活動	後半合同活動
I 期	<ul style="list-style-type: none"> ○手をつなぎ輪になる。(右左にまわる、ゆっくりはやく、小さくったり大きくなったり)----- (毎回) ○こんにはのあいさつ----- (毎回) ○「こんには」のうたをうたう----- (毎回) ○1本のつながり場所を見て回る----- (9/22) ○名前呼び活動----- (毎回) ①リーダーが名札を渡し、握手をする----- (9/22) ②ボールを呼ばれた子にわたす----- (9/29) ③母・子でポーズをとる----- (10/6)(10/27) ④母・子のポーズを写真にとる----- (10/13) ⑤母・子別々に呼ぶ、観客拍手----- (10/20) ○なべなべ底ぬけ----- (10/6)(10/13) ○「どんぐり貝」の名前の紹介----- (10/13) ○どんぐりのうた----- (10/13)(10/20)(10/27) 	<ul style="list-style-type: none"> <好きな遊びをみつける> ①フラフラ、ボール、車、つみ木一家づくり----- (9/22) 山の上でパーティ----- (9/22) ②家ができ、お茶をのんだり----- (9/29) ③積木、フラフラ、クッションがでて、買物ごっこ----- (10/8) ④人形、つみ木、フラフラ、車で遊ぶ----- (10/13) ⑤ままごとコーナー、かいじゅうごっこ、積木コーナー----- (10/20) ⑥家コーナー、お店屋さん、車、ボール遊び----- (10/27) ○神社へ散歩----- (9/29)(10/13) ○運動会ごっこ----- (10/13) ○お絵書き一展覧会----- (10/27) ○かくれんぼ----- (10/20)(10/27) ○遠足----- (10/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介(家族のこと、住んでいる所、これからの抱負、子供のことなどについて)----- (9/22) ○この会の名前と活動計画を話しあう----- (9/29) ○私とこどもと絵本(こどもと共に読む、体験を通しての話しあい)----- (10/8) ○日常生活の中の絵本(体験の中から、記録用ノートを用意)----- (10/13) ○記録のつけ方について----- (10/20) ○遠足についての話しあい----- (10/27) Ⅰ期をふりかえって----- (10/27) ○遠足(おとうさん、おねえさん、おばあさんも一緒に参加)----- (10/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ○出会い ①母Gトネル、子G汽車--(9/22)(9/29)(10/6)(10/13) ②かくれんぼ----- (10/20)(10/27) ○たかいたかい、全員で----- (9/22)(9/29)(10/6)(10/20)(10/21) ○さようならのうた----- (毎回) ①手をふりながら----- (9/29) ②足をたたきながら----- (10/13) ③手をたたきながら----- (10/27) ○手あそび「ひげじいさん」----- (9/29)(10/6)(10/13) ○はり絵をみる----- (10/6)(10/27) ○とんぼのうた----- (10/6) ○母が子の手をもってどんぐりかえし----- (10/20) ○かごめかごめ----- (10/20) ○遠足----- (10/31)
II 期	<ul style="list-style-type: none"> ○手をつなぎ輪になる----- (毎回) ○こんにはのあいさつ----- (毎回) ○「こんには」のうたをうたう----- (毎回) ○名前呼び活動----- (毎回) ①呼ばれたらみんなの前を走る----- (11/10) ②中央で高い、高いをリーダーにもらう----- (11/17) ③うさぎとびで中央に行く----- (12/1) ④スキップをしてもとのところに----- (12/8) ○ジャポ取りゲーム----- (11/10) ○母Gかえるのうたをうたう、子Gかえるになって----- (11/17) ○パララン体操----- (12/1) ○空気のボールの投げっこ----- (12/8) ○クリスマス会 みんなでかざりつけ----- (12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> <コーナーができそこで充実して遊ぶ> ○クッション運び、車の工場、ケーキ屋さん----- (11/10) も屋さん、お人形コーナー----- (11/10) ○紙芝居、お話しの本をよむ----- (11/10)(12/1)(12/8) ○お面づくり----- (11/17) ○お面をつけて1人1人ポーズをする----- (11/17) ○「おおかみさん今何時」----- (12/1) ○花いちもんめ----- (12/1) ○かくれんぼ----- (12/1)(12/8) ○秘密基地、ロボット、ままごとコーナー、ひもを使って遊ぶ----- (12/8) ○クリスマス会 「どんぐり」と「象さん」をうたう----- (12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○心理劇を使って ①体で表現・視線の変化体験----- (11/10) ②こどもになる、こどもになって本をよんでもらう----- (11/17) ③お話しづくり----- (12/1) ○Ⅱ期をふりかえって----- (12/8) ○クリスマス会 てぶくろを演じる----- (12/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○花いちもんめ----- (11/10)(12/1) ○どんぐりのうたとまねをする----- (11/10)(11/17) ○手あそび----- ①ひげじいさん----- (11/10) ②げんこつ山----- (11/10) ③お弁当箱----- (11/10)(12/1)(12/8) ○さようならのうた(毎回) ①ふりをつけて母からの提案----- (12/1) ○クリスマス会----- (12/15)
III 期	<ul style="list-style-type: none"> ○「こんには」のうた、あいさつ----- (毎回) ○手をつなぎ輪になる----- (1/12)(2/9) ○音楽にあわせて動く----- (2/2) ○かけっこをしてあいさつ----- (1/26) ○少しずつ輪になる----- (2/16) ○心理劇 ①おももちの心理劇----- (1/12) ②雪-雪合戦-だるまスキー-かまくら----- (1/19) ○名前呼び活動----- ①名前呼びのうたをうたって----- (1/12) ②クッションの中へ呼ばれたら入----- (1/19) ③名前呼びのうたで汽車になって次の友だちへ----- (1/26) ④どんぐりのポーズ----- (2/2) ⑤中央で高い、高いをする----- (2/16) ○おわかれ会----- (2/23) 	<ul style="list-style-type: none"> <コーナー成立、交流が行なわれる> ○ままごとコーナー、お店屋さんコーナー----- (1/12) ○本屋さん、サンドイッチ屋さん、お地藏さん----- (1/19) ○かけっこ競争----- (1/19) ○神社へ行く、どんぐりでおままごと----- (1/26) ○鬼のお面づくり-鬼ごっこ----- (2/2) ○絵を書く----- (2/9) ○お人形の家コーナー、やきそば屋コーナー、つみ木のコーナー----- (2/16) ○お話しの本をよむ----- (2/16) ○おわかれ会----- (2/23) 	<ul style="list-style-type: none"> ○心理劇を使って ①新しい年に向けて扉を開く----- (1/12) ②子どものしかり方について----- (1/19) ③5つのかかわり方 今悩んでいることを話しあう----- (1/26) ④集団とこどもについて----- (2/2) ⑤コミュニケーションについて----- (2/9) ○絵本カードのまとめ方について----- (2/2) ○10年後の私、活動をふりかえって----- (2/16) ○おわかれ会 ペーパーサートを演じる----- (2/23) 	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の子G・母Gの活動をお互い話す--(1/12)(1/19) ○拾ったしいの実の料理をする----- (1/26) ○豆まきをする----- (2/2) ○ひらいたひらいたのうた----- (2/9) ○手あそび ①ひげじいさん(すわって)----- (2/16) ②お弁当箱----- (1/26)(2/16) ○フラフラのテレビ登場----- (2/9) ○おわかれ会----- (2/23)

Ⅳ 幼児集団研究会の研究活動報告

- (1) 研究会活動を通しての学生の卒業論文と筆者らの研究論文より、研究内容の領域を、関係学における自己構造図で表わすと図3のようになる。これらは、すべて実践活動(SPO領域)を通しての研究であり、理論即実践、教育即研究の特色が具現している。

図 - 3



(2) 研究論文一覧

- ① 小原伸子・大谷典子「越谷市における児童集団研究会の活動について」『年報、関係学』第3号 関係学会 1981
- ② 佐藤啓子・小原伸子「人間発達についての関係学的考察Ⅻ」『日本保育学会第34回大会論文集』 1981
- ③ 佐藤啓子・小原伸子「人間科学における関係弁証法の展開(3)」『人間科学紀要』文教大学人間科学部 1981
- ④ 小原伸子・大谷典子・青木玲子「越谷市における児童集団研究会について—母Gの活動を中心に—」『年報、関係学』第4号 関係学会 1982
- ⑤ 佐藤啓子・小原伸子「人間発達についての関係学的考察Ⅺ」『日本保育学会第35回大会論文集』 1982

- ⑥ 小原伸子「文教大学幼児集団研究会活動に関する関係学的考察」 関係学会発表 1983
- ⑦ 佐藤啓子・小原伸子「人間発達についての関係学的考察Ⅻ」『日本保育学会第36回大会論文集』 1983
- ⑧ 佐藤啓子・小原伸子「かかわり方の発展に関する研究⑭」『応用心理学会第50回大会論文集』 1983

おわりに

1980年からはじめた幼児集団研究会も今年で第4回をむかえることができました。第1回から第3回までは、半年間であったり、隔週であったりと希望通りにはいかなかったが、第4回から1年間毎週1時間と希望通りの運びとなった。まず動きを創り出すことからとの意欲にかられて活動を開始したため、本学教育学専修研究室スタッフの方々に、ご無理をお願いしながらの運びとなりました。にもかかわらず、暖かい見守りの中で、活動がここまで続けられたことを深く感謝いたします。

また、母G責任者として活躍してくれた大谷典子さん、青木玲子さん、リーダーとして参加してくれた研究生、学生諸君にも、この場をかりて感謝いたします。

最後になりましたが、顧問であり、研究指導をくださった佐藤啓子先生に、感謝いたします。

引用・参考文献

1. 並木紀子・高橋湛子・児童集団研究会「集団指導の理論・技法・実践」『児童臨床学』P'1 ~P'2 1968
2. 幼児集団指導研究会編「幼児の集団指導」日本肢体不自由児協会 1979
3. 松村康平「保育関係論」『保育学の進歩』フレール館 1977
4. 佐藤啓子・小原伸子「人間科学における関係弁証法の展開(2)」『人間科学紀要』文教大学人間

科学部 P'32 1980

5. 佐藤啓子・小原伸子「人間科学における関係弁証法の展開(3)」『人間科学紀要』文教大学人間科学部 P'56~P'59 1981
6. 小原伸子・大谷典子「越谷市における児童集団研究会の活動について」『年報, 関係学』第3号 関係学会 1981
7. 小原伸子・大谷典子・青木玲子「越谷市における児童集団研究会の活動について—母Gの活動を中心に—」『年報, 関係学』第4号 関係学会 1982
8. 日本私立幼稚園連合会編「幼児の性格形成」ひかりのくに(株) 1976
9. 佐藤啓子・小原伸子「人間科学における関係弁証法の展開(1)」『人間科学紀要』文教大学人間科学部 1979
10. 佐藤啓子・小原伸子「人間発達についての関係学的考察Ⅹ」『日本保育学会第36回大会論文集』 1983
11. 佐藤啓子・小原伸子「かかわり方の発展に関する研究⑭」『応用心理学会第50回大会論文集』 1983